

第11回東邦大学医療センター佐倉病院

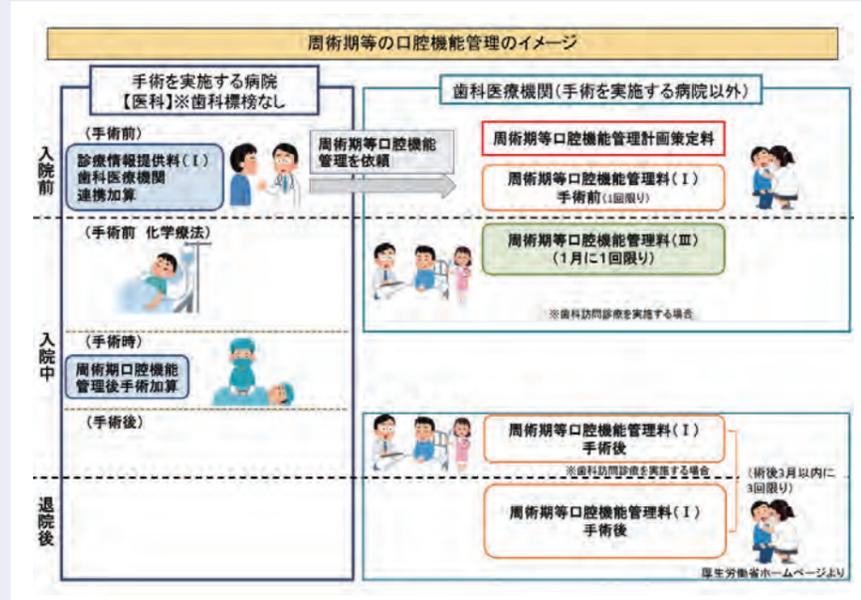
医療連携セミナー

「佐倉病院における周術期口腔機能管理」について

医療連携・患者支援センター 副センター長
京谷 みよ子

2019年11月21日(木)『周術期口腔機能管理の実際と佐倉病院における地域連携』をテーマに、東邦大学医療センター大森病院 口腔外科 准教授 関谷秀樹先生にご講演頂きました。院外から49名の方々にお越しいただき、院内外合わせて91名の参加となり盛会に開催されました。

手術を受ける患者さんの口腔機能の管理は、手術後の経過に大きく関わることは知られています。これまで当院では、周術期の患者さんへの口腔機能管理について組織立った取り組みができておりませんでした。そこで今回、関谷先生からご講演を頂き、同時に当院として地域の先生方にご協力をいただきながら『周術期口腔ケア』のシステムを作り



上げていくことを報告致しました。当院は歯科・口腔外科を標榜しておりませんので、地域の歯科医院・歯科医師会の方々と連携して取り組むことが重要と考えております。まずは今回ご紹介させて頂いた流れでシステムを運

用していきたいと思いますが、運用しながら地域の先生方からのご意見をいただき随時修正し、患者さんにとってより良いものにして参ります。今後とも地域の先生方のご理解ご協力よろしくお願ひ致します。

第9回 2020 2/1土 17:00～ 医療連携学術フォーラム

開催場所 ウィンストンホテル・ユーカリ
 講演1 「最新の乳癌外科治療」
 講演2 「在宅医療って何ですか? ～病診連携のための基礎知識～」
 ご出席いただける方は、医療連携・患者支援センターまでご連絡ください。

公開講座スケジュール

2020年1月～2020年5月
佐倉病院公開講座のお知らせ

入場無料・申込不要・200席

	1 January	2 February	3 March	4 April	5 May
開催予定日時	25日 土曜日 13:00～15:00		28日 土曜日 13:00～16:00		30日 土曜日 13:00～15:00
講演テーマ	うつと暮らし ～地域で進める ころの健康～	休会	<地域で考えるケアと治療> 歩行障害	調整中	褥瘡対策について(仮)
担当	<メンタルヘルスクリニック> 桂川 修一 他		<脳神経内科・メンタルヘルスクリニック・ 脳神経外科・リハビリテーション部・ ソーシャルワーカー・看護部 他>		<褥瘡対策委員会> 林 明照 他

東邦大学医療センター佐倉病院
臨床病理症例検討会 開催予定
(場所: 東棟7階・講堂)

第206回: 1月20日(月) 18時00分～
 第207回: 2月17日(月) 18時00分～
 第208回: 3月26日(木) 18時00分～

地域の医療機関の皆様もご参加いただけます。
 詳細は病院ホームページでご確認ください。
 (問い合わせ先: 教育支援室)

Vol. 47 2020, 1, 1

東邦大学医療センター佐倉病院
 発行 広報委員会・東邦佐倉会事務局
 〒285-8741
 千葉県佐倉市下志津564番地1
 TEL 043-462-8811(代)
 FAX 043-462-8820(代)
 URL https://www.sakura.med.toho-u.ac.jp

Topics News

- Executive Message
新年挨拶
病院長 長尾 建樹
- アピールしたい診療と研究 #21
脳神経外科 教授 長尾 建樹
- 公開災害救急訓練(トリアージ) 報告
副院長/防災対策委員長 岡住 慎一
医療連携だより 医療連携・患者支援センター長 吉田 友英
- 第11回東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナー「佐倉病院における周術期口腔機能管理」について
医療連携・患者支援センター 副センター長 京谷 みよ子
次回医療連携セミナー/公開講座スケジュール/臨床病理症例検討会のご案内



新年挨拶

おめでとうございます。無事に新しい年を迎えることができたことをお喜び申し上げ、日頃より東邦大学医療センター佐倉病院に御厚情を頂いていることに感謝致します。教職員一同、新年にあたり気持ちを新たに、「患者さんのために」という基本に立ち返り、地道に医療に取り組む所存ですので本年も何卒よろしくお願ひ致します。

当院は高度急性期病院として地域貢献を続けられる「タフな病院」作りを目指してまいりました。今年も引き続き最重要課題である地域包括ケアのための医療連携と、地域災害拠点病院として地域防災へのかかわりをはじめとした地域中核病院としての機能強化に努めてまいります。

昨年千葉県を襲った台風災害時には当院の災害派遣医療チーム(DMAT)が延べ1週間にわたり被災地の医療支援活動を展開し、被災病院から当院をはじめとした佐倉地区医療

Executive Message

機関へのスムーズな重症患者緊急搬入を行うことができました。これは一昨年より市内の基幹病院、医師会、行政機関と合同で行っている災害に対する総合訓練の賜物であり、今後も様々な被災者に対する支援体制そして地域安全のための防災体制を官民一体となって確固たるものにしていかなければならないと考えております。

医療連携・患者支援センターでは地域完結の医療体制を確立するため、医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、メディカルソーシャルワーカーによる多職種協働による地域医療連携をさらに深化させ、最善の医療を最適な場所で適切な時期に受けられるように入院前後の患者サポートの強化を図っています。また、同センターでは、広く当院に対する御要望、御叱責にも迅速な対応を心がけていますので、遠慮なく御連絡いただき積極的に御活用ください。

これからも地域へ専門性の高い医療が提供できるように人材の確保ならびにハード面での整備を継続し、学生や研修医に対しても高度できめ細かな教育が実施できるように努めてまいります。

我々は東邦大学建学の精神である「自然・生命・人間」を礎として、大自然に囲まれた佐倉の地で、生命の尊厳を忘れずに人として地域社会へ貢献することを本懐としてまいりますので、変わらぬ御支援、御理解をお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとりまして佳き年になるよう心から祈念して年頭の挨拶とさせていただきます。

アピールしたい **診療と研究**

21

脳神経外科

にズームアップ!



脳神経外科 教授
長尾建樹

東邦大学医療センター佐倉病院脳神経外科では、24時間の救急診療体制で頭部外傷や脳卒中をはじめとした、あらゆる脳神経外科疾患に手術治療を含め幅広く対応しています。当院は2019年9月に日本脳卒中学会から一次脳卒中センターとして認定され、脳卒中ケアユニット(SCU)を中心に脳神経内科と協力して脳卒中診療に注力しております。

急性期の脳血管障害においては脳血栓による血管閉塞に対して薬物による急性期の血栓溶解療法だけでなく、血管内カテーテル法により機械的に血栓を除去する血栓回収療法も開始しており効果を挙げています。慢性期においては脳塞栓の原因となる内頸動脈狭窄症に対して頸動脈内膜剥離術や頸動脈ステント留置を積極的に行っています。脳血流不全の症例に対する頭蓋内外動脈吻合術とともに県内有数の症例数を誇り、虚血性脳血管障害の発症予防に多大な効果を挙げています。

脳腫瘍に対しては手術とともに放射線療法や化学療法などの集学的治療を行っており、脳動脈瘤や脳動脈静脈奇形に対する血管内塞栓術にも対応しています。特徴的な分野として機能的脳神経外科疾患が挙げられます。この疾患の治療法として、パーキンソン病などの不随意運動に対する定位脳手術による脳深部刺激療法や難治性疼痛に対する脊髄刺激療法、痙攣に対するバクロフェン髄腔内注入療法(ITB療法)などがあり、当院は県内でこれらを行っている数少ない施設の一つです。

定時の外来診療は、月曜日から土曜日までの午前中



脳神経外科 スタッフ

に初診・再診患者の診療を行っているほか、機能的脳疾患と血管内治療に関する専門外来を受け付けています。地域の先生方からご紹介いただいた症例は24時間体制で対応しており、退院後の逆紹介も積極的に行っています。その中でも地域との連携症例数の多い脳卒中に関しては千葉県共用脳卒中地域医療連携パスを使用して回復期リハビリテーション病院への転院をスムーズに行い、早期の社会復帰を可能にする体制をとっています。

学術面では、日本脳神経外科学会をはじめ、日本脳卒中の外科学会、日本定位・機能神経外科学会など、数多くの学会にて発表を行い、先日も日本シミュレーション外科学会では根本准教授が学会賞を受賞しました。その他にも学会賞や優秀演題を獲得しています。国際学会へも積極的な参加を促しており、中国とアメリカの脳神経外科施設で講演を行う機会を得ることができました。臨床研究が中心ですが、基礎研究では動脈硬化の指標となるマーカーを研究し内頸動脈狭窄の早期発見や治療効果判定に有用性が見いだされつつあります。このような臨床にフィードバックできる基礎研究も積極的に行っています。

今後も、従来通り脳神経外科専門医、脳卒中専門医、各種技術指導医や認定医、脳血管内治療専門医などのより高度な専門分野の資格を持つスタッフを揃え、症例に応じて診療チームに加わり常に最先端の治療を提供する努力を継続してまいります。

これからも東邦大学医療センター佐倉病院脳神経外科に対する地域の医療機関の皆様からの温かいご指導・ご鞭撻を切にお願いいたします。



副院長／
防災対策委員長

岡住 慎一

【トリアージ】
報告

公開災害
救急訓練

令和元年9月7日、病院防災訓練を施行しました。当院の防災訓練は、年2回、院内火災発生時対応と、地域災害時対応をそれぞれ目的として行っています。今回の訓練は後者で、本院では包括トリアージ訓練方式をとり、発災時の救急搬送や独歩来院を想定した約30名の模擬患者に対し、診察によって、赤(重症:要緊急手術等)、黄(中等症:要入院等)、緑(軽症:応急処置帰宅可能)のareaに分けて収容し、さらに検査(採血、レントゲン、超音波)によって診断して、緊急手術、入院病棟搬送、他施設移送手配、投薬等の一連の流れを行います。当院では例年施行してきたこの訓練を、平成29年の災害拠点病院の指定後から佐倉市の関連機関に公開し、今回は地域医療機関、佐倉消防、印旛健康福祉センターから計31名の参加を得て合同で行いました。また、同日9月7日は首都直下型地震を想定した内閣主催「全国大規模地震時医療活動訓練日」にあたっており、千葉県では千葉県北西部を震源とする震度6強の地震を想定して、①地域医療活動訓練 ②43道府県DMATの参集、活動訓練 ③広域医療搬送訓練、が施行されており、当院の訓練もこれに連動した計画を立てて行いました。

断水への対応、他施設への患者移送などのシミュレーションも行い、重層的多面的な訓練となりました。場所は、旧看護学校の1・2階を使用し、2階に災害対策本部を設置し、派遣を受けた北海道・山口の日本DMATの方々から指導をいただきつつ、状況把握、連携対応、入退院の管理等を行いました。外来患者のトリアージ班は1階で活動し、その後搬送指揮班が、検査ブース(1階)、病棟(2階)への移動を担当しました(写真)。また、佐倉消防救急隊により日本医科大学千葉北総病院まで実際に4名の患者搬送訓練がなされました。早朝から準備して14時から開始し15時に終了となりました。

その後、各班の代表ならびに参加いただいた行政・連携医療機関の方々、日本DMATの方々によって講評がなされました。今回、発災時の院内対応、佐倉地域・全国連携を模擬体験できたとともに、地域の顔の見える連携構築がさらに深まり、非常に有意義な訓練となりました。今回の総括を年度末に諸機関とともに予定しております「救命と安全の連鎖研究会」にて報告し、発災時の佐倉市連携の意識共有を進めていきたいと考えております。



TOHO UNIVERSITY
SAKURA MEDICAL CENTER

IRYO
RENKEI

医療連携 だより

当院内科へのご紹介につきまして、
ご連絡とお願い

医療連携・患者支援センター長
吉田 友英

現在、総合内科の担当医師が不在となっております。ご紹介いただきます際には、先生が最も適したとお考えの専門内科診療科名を宛先に明記し、ご紹介状の作成をお願い出来れば幸いです。内科は、呼吸器内科、脳神経内科、腎臓内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌・代謝内科、血液内科に分かれております。その他の診療科の詳細は、同封の外来診療担当表をご覧ください。お手数をおかけしますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

< 当院の内科 >

- 呼吸器内科
- 脳神経内科
- 腎臓内科
- 循環器内科
- 消化器内科
- 血液内科
- 糖尿病・内分泌・代謝内科